

高北 Times No.4

高北



写真部 快進撃! ～入賞ラッシュの舞台裏～

高北写真部は今年度、県総合文化祭で全国大会2作品、関東大会で2作品の出場権を獲得しました。さらに、上毛写真コンテストでは計19作品が入賞、アイデア写真コンテスト「はたらくすがた」では見事グランプリに輝きました。数々の入賞作品を生み出す舞台裏にはどんな秘密があるのか、部長さんに聞いてみました。

※「高北 Times」とは
中学生の皆さんに「高崎北高校」を知ってもらうため、さらには「高校生活」を知ってもらうための広報誌です。本校の授業、学校行事、部活動、進路活動についてお知らせしていく予定です。
詳しい内容は高北 HP にもあります。ぜひご覧ください。

Q カメラを構えるとき、いつもどんなことを考えているの？

写真を撮ることが好きなので、まずは「楽しい」という思いを大切にしながらカメラを構えています。その上で、その被写体に合った撮り方を考えながら撮影しています。被写体との距離やカメラの設定など、様々な撮り方をすることが「最高の1枚」にもつながっていいると思います。

Q カメラを始めてから、普段の景色は変わって見えるようになった？

いい意味で「視点」が変わったと思います。写真は必ず人の目線から撮らなければならぬ訳ではないので、一つのものを上から見たり下から見たりする機会が増えました。また、普段の日常風景も写真にしてみるときれいに映ったりすることがあるので、カメラを通して見える景色を普段から意識するようになったと思います。



高校生の部グランプリ
「ぬくもり」



上毛写真社賞
「Last Inning」

Q 「最高の一枚」を撮るために、一番こだわっていることは？

撮影時のカメラの設定に特に気を付けています。カメラにはシャッタースピード、絞り、ISO感度などの要素があり、設定を少し変えるだけで写真の雰囲気や明るさなどが大きく変わってしまいます。どのような写真が撮りたいか考え、そのイメージに合った撮影ができるよう、一つ一つの要素に気を遣っています。

Q 初心者でも入賞を狙える？

もちろん初心者でも入賞を狙えます！自分も高校入学を機にカメラを買ってもらい、そこから写真を始めました。カメラは何台か学校にもあり貸出できるので、部員の中には自分のカメラを持っていない人も多いです。そうした人でもたくさん入賞しているので、皆さんのが思っているよりハードルは低いと思います！



最優秀賞・熊切大輔賞
「レンズの中の小宇宙」

Q 高北写真部の雰囲気は？

高北写真部では、部員や先生と色々なところに出かけた先で写真を撮ることが多いため、部員同士は学年に関わらず仲がいいと思います。時にはモデルをし合うこともあります。また、大人数で撮影し合う中で、「もう少し下から撮ってみたら？」「シャッタースピードを変えてみるとどうなる？」などと、構図や設定などについて話し合うことが多いです。多くの視点が集まることで色々な撮り方ができていると感じています。

Q 関東大会出場、上毛コンテスト1位の感想を聞かせてください。

入賞した作品は、どちらも高北野球部の熱気あふれる試合風景を撮影したものでした。関東・全国大会出場を目指し頑張ってきたので、関東が決まった時はとても嬉しかったです！総文は自分たちの目の前で入賞作品の選定が行われるのですが、野球部の写真は他校にもたくさんあったので、選ばれたときの思いはひとしおでした。上毛の写真は自分が初めて1位を獲れただけでなく、野球部の方が作品の展示を見て喜んでくれたことが本当に嬉しかったです。関東大会ではより多くのハイレベルな作品から学び、今後さらに多くの大会にチャレンジしていきたいと思います。



部長 2年 Kくん

総合的な探究の時間の取り組み

高崎北高校の「総合的な探究の時間」は、変化の激しい社会を生き抜く力を培うことを目的とした、教科の枠を超えた学びの場です。特に2年次のテーマ研究では、生徒一人ひとりが自ら課題を設定し、情報の収集・分析や、周囲との協働を通して解決を目指します。今年度は中間発表を高崎経済大学附属高校と合同で実施するなど、学校外との交流も盛んです。現在は3月の最終発表に向け、いよいよ総仕上げの段階です。今回は、特色ある4名の取り組みを紹介します。



高経附との合同発表の様子

私は、高崎市の梅の知名度向上をテーマに探究活動を行いました。初めは梅を使ったレシピ表を作るところを考えていましたが、梅を使ったメニューを実際に販売してみるのも面白そうだと思いプロジェクトを変更しました。探究活動は自分のやってみたいと思うことをことんと詰めることができた活動だと思います。やる前に無理だと思わず積極的に挑戦することでワクワクが詰まった探究になると思うので、ぜひ積極的に行動して見てほしいと思います！！

2年 Nさん



辻村深月さんの小説の『この夏の星を見る』をきっかけに、天文学振興を目的とした、群馬スター・キヤッチャコンテストを企画・開催しました。資金不足により望遠鏡の作製や審判の確保に苦労しましたが、大会の考案者の方や、望遠鏡メーカー、天文台の方など、多くの方々が私の思いに応えてくださいました。当日は県内の約30名の高校生が星空の下競い合い、星空を楽しむ最高の交流の場となりました。今後はこの活動を広げ、いつか全国大会を開催したいです。

2年 Tくん



私は「野菜不足を解消したい、群馬の野菜について知りたい」という思いで探究活動を行ってきました。プロジェクトの集大成として、給食のメニューを製作し、実際に小学生へ提供していただきました。この活動では、企業の方や小学校の先生方など様々な人の協力が不可欠でした。だからこそ、とにかく多くの行動をすることが大切だと思います。これから探究に取り組む皆さんも、迷ったらぜひ行動をしてみてください。

2年 Tくん



「子ども食堂への偏見をなくし、もっと利用しやすくしたい」。そんな思いから、実際にスタッフさんを高北へお招きし、子ども食堂を疑似体験できる「校内居場所カフェ」を開催しました。実施後のアンケートでは「イメージが変わった」「自分もボランティアをしたい」という前向きな反響を多く得られました。今回のプロジェクトは先生方の協力があってこそ実現できたものです。探究活動で困ったり、悩んだりしたときは、積極的に先生に相談することをお勧めします。

2年 Tさん

